

別紙標準様式（第7条関係）

会議録

会議の名称	第3回 枚方市立楠葉・津田生涯学習市民センター・図書館指定管理者選定委員会
開催日時	平成29年10月20日（金） 午後7時00分から 午後8時45分まで
開催場所	市役所別館4階 第2委員会室
出席者 （順不同）	会長：相模 太朗 委員 副会長：服部 純子 委員 委員：渥美 公秀 委員、小川 知子 委員、原田 隆史 委員
欠席者	なし
案件名	(1) プレゼンテーションについて (2) 採点について (3) その他
提出された資料等の 名称	・ 資料18-3 楠葉・津田施設採点表 ・ 資料19-5～7 評価コメント記入用紙
決定事項	① 申請団体（3団体）の提案内容に対する採点及び評価コメントを10月31日までに事務局に提出する旨を決定。 ② 評価コメント等については、事務局で取りまとめ、11月15日開催の第4回委員会に提出する。
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	非公開 枚方市情報公開条例第6条第6号に規定する非公開情報が含まれる事項について審議・調査等を行うため。
会議録の公表、非公表の別 及び非公表の理由	本委員会の答申後に公開
傍聴者の数	—————
所管部署 （事務局）	産業文化部 文化生涯学習室 教育委員会 社会教育部 中央図書館

審 議 内 容

(開会 午後7時)

(会 長) 開会に先立ちまして、提案させていただきます。

本日も、これまでと同様、効率的な進行の観点から、重複部分は省略させていただきたいと考えています。

それでは、第3回枚方市立生涯学習市民センター・図書館の指定管理者選定委員会の第2部を開会します。

まず、委員の出席状況と、本日の進め方等について、説明をお願いします。

(事務局) 本日の出席委員は5名で、委員全員に出席いただいております、会議として成立することを報告します。

それでは、資料の確認をさせていただきます。

次々と、資料18採点表、本日ご使用いただく採点表は、資料18-3になります。

次に、資料19評価コメント記入用紙については、資料19-5、資料19-6、資料19-7となります。

その他、A4版ファイルに綴じた指定申請書一式の写し等につきまして、E・F・Gと付けさせていただきますいております。

本日は、先日の第1部に引き続きまして、楠葉・津田施設に関する、3申請団体からのプレゼンテーション、また、採点に関する確認等、必要な審議を行っていただく予定をしております。

(会 長) ただいまの事務局からの説明について、委員の皆さんから何かご質問、ご意見等はありませんか。

(質問・意見なし)

案件 (1) プレゼンテーションについて

(会 長) 案件 (1) 「プレゼンテーションについて」を議題とします。

プレゼンテーションに入る前に、まず、申請団体の事業計画の提案内容と確認事項に関して、評価への観点や考え方等、共有すべき認識などについて、ご協議いただきたいと思います。

(事務局) 審査におきましては、資料18-3の採点表に、AからEまでの5段階で採点をいただくものです。内容審査は、申請団体から提出のあった事業計画書が、本市が求める確認事項を満たしているかをご確認いただくとともに、加点事項に該当するかをご判断いただくものです。

プレゼンテーションでは、提案内容等に関し、事業計画書等から読み取れない部分について、ご確認いただければと考えています。

評価コメント記入用紙は、申請団体の採点・評価を行っていただくに際し、その申請団体に関して良かった点、良くなかった点などの評価理由についてご記入いただくものです。よろしく願いいたします。

(会 長) ただいまの説明に対して、委員の皆さんからご質問、ご意見はありませんか。

(意見なし)

(会 長) 次に、プレゼンテーションを実施する前に、申請団体の事業計画の内容や、採点に関して委員の間で共有しておくべき事項などについて、委員の皆さんからご意見はありませんか。

(意見なし)

(会 長) それでは、準備がよければプレゼンテーションを実施したいと思いますので、事務局で楠葉・津田施設の申請団体の誘導をお願いします。

<楠葉・津田施設申請団体1 (フレンドシップ枚方共同事業体) 入場・準備>

(事務局) ただいまから、プレゼンテーションを行います。

プレゼンテーションは、はじめに団体の名称及びプレゼンテーションされる方のお名前を述べてから始めてください。なお、プレゼンテーションの時間は10分間となりますのでよろしくお願い致します。

終了1分前になりましたらベルでお知らせし、所定の10分になり次第、終了とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、プレゼンテーションが終了しましたら、引き続き、委員の皆さんからの質問にお答えをいただきます。それでは、始めてください。

[申請団体1の出席者、自己紹介]

(申請団体1) 確認事項の1にありますとおり、私たちは企業体として応募しております。代表企業はヤオキン商事株式会社です。明るい豊かな社会を作るという方針のもと、主に東京都足立区の生涯学習施設と図書館の複合施設の指定管理者として施設運営を行っております。足立区では指定管理者制度が導入された当初より指定管理者として、自治体とともに歩んでまいりました。現在は区内15施設のうち、8施設を受託しており、最も初期から受託している施設では14年目を迎えようとしています。さらに2011年からは、職員全員を無期雇用に切り替え、人材育成にも力を入れています。自治体と共通のビジョンを持ち、全体として良いものを目指していきたい。そのためには、社員全員が将来にわたって発展していこうという意識が必要です。短期雇用では、そういった長期的な視野における発展が難しいと考えたため、このように雇用形態を見直し、社員を育ててきました。また、構成団体である株式会社サンワックスは、指定管理者としてビルマネジメントを中心とした事業を展開しております。

全国的に公共施設の老朽化が進む中、施設の安全管理、設備維持は常に課題となっております。事業というソフトの充実には、施設というハードウェアが安全に維持されていることが肝要であると考えております。設備管理のプロであるサンワックスとともに施設を運営することで、ソフトとハード両面における良好な施設運営が可能になると考えております。

構成2社は、既に埼玉県で複合施設を共同事業体として運営しており、自治体からも高い評価をいただいております。互いに尊敬しあい、長所利点を活かしあい、良好な管理運営体制を築いてお

ります。

それでは、提案内容についてご説明します。概要版3ページの確認事項8をご覧ください。私たちの人員の配置に関する基本的な考え方についてご説明いたします。私たちは公の施設の指定管理者として、同一のビジョンを持った職員を横断的に配置することで、一体的な運営を行うことを提案しております。そもそも、学びという観点から考えれば、生涯学習施設も図書館も学びのための施設という点ではかわりはなく、根っこの部分は同じです。例えば足立区では、当初から一体的な運営を目指してきました。ヤオキン商事もそれに応え、学習センターと図書館の垣根なく業務を行ってきました。一社で、図書館も生涯学習施設も運営できるということは、全国的にも珍しいと思います。私たちは長い時間をかけて、職員の考え方を垣根なくすよう取り組んできました。ヤオキン商事では現在、採用の窓口を一つにし、社会教育施設の職員として採用しております。

次に、施設の魅力アップのための、改修・改善についての提案をご説明します。4頁の確認事項、10と11をご覧ください。私たちは生涯学習市民センターと図書館のいずれも、設備の補修や館内美化を提案しております。私たちが実際に目にしたところでは、施設の老朽化に加えて、不規則な掲示物や備品の劣化によって、暗い印象を持ちました。例えば津田施設のロビーのソファは座面が破れていたり、カバーにも埃がかかっていたりしているようでした。日に焼けて破れた掲示物がそのまま放置されているのも見受けられました。たとえ開催されている事業の内容が素晴らしくても、館内の環境が良くなければ人は集まらないのではないのでしょうか。滞在型図書館を実現させるにも、まずは環境改善が必須であると考えます。特に私たちは、若い世代や女性の利用を増やしたいと考えております。現在、枚方市の人口に対する利用者の割合として、子どもの利用が大人よりも少ない状況です。ここで、子ども単独の利用を促すよりも、まずは周りの大人、特に女性をターゲットにする方が良く考えています。女性は社会性があり、情報が伝わりやすいのも利点です。愛知工業大学の中井教授の研究でも、男性の利用者は一定時間留まって新聞や本を読む人が多いのに対し、女性は書架を回って目当ての本を見つけると帰ることや、子どもと一緒にいることが指摘されています。環境整備を進めながら、施設をより活かしていけるような事業を開催してまいります。

確認事項の12から16をご覧ください。生涯学習市民センターと図書館は学びのための施設であり、根本は同じです。共通の方向性でそれぞれの得意分野を窓口として事業を展開いたします。例えば小学生の学び支援講座として、本文33ページにありますワクワクサイエンスという講座を実施しています。この講座は子どもたちと一緒に実験や観察を行い、「なぜ。」という気持ちから学びを深めていく講座です。体験は生涯学習市民センターの施設で行い、図書館では関連書籍のブックトークや特集展示で、子どもたちの学びをサポートします。ほかの自治体では、地域の大学など学生グループとも協働して開催しております。そのほか23ページから37ページにかけて提案しているように、今まで蓄積してきた経験を棚卸しさせていただくような気持ちで、様々な事業に取り組んで参ります。これにより事業を充実させ、利用率を上げることはできます。しかしそれだけでなく、市民が主体的に学び、相互に繋がりを産み出すような仕組みも必要だと私たちは実感しております。市民が受身となって、ただ提供されるものを楽しむだけの講座では、いずれ利用者数も頭打ちとなります。多くの市民が繰り返し訪れる場である生涯学習市民センターや図書館は、個人の持つ蓄積された経験や知識が行き交う場でもあります。一人ひとりが持つ能力や知恵、経験等は、個として留めておくのではなく、この施設を仲立ちとして結び付けられることにより、さらに活かされ、新たな文化の発信や創造の源泉となります。生涯学習市民センターと図書館は、そのための学

びを支援する機能をさらに強化して参ります。

最後に、緊急時の体制について触れたいと思います。概要版 10 ページ、確認事項 33 をご覧ください。熊本地震においては、ある公共施設が避難場所に指定されていないのにも関わらず、自宅を過ごすことに不安を感じる方が、公の施設ということで大勢訪れたと聞いております。また、東日本大震災の際に、自治体職員と殆ど連絡が付かない状態であったことも鑑み、大規模災害時には総括責任者、副総括責任者が独自の判断で行動できるように訓練した上で、一定の権限を委譲しています。自治体からの指示を待つばかりでなく、ある程度の判断は現場で行えるように、平常時から自治体と協議のうえ、非常時の訓練を進めて参ります。

そのほか、お知りになりたいことは多々あるかと思いますが、質疑応答にてお答えできればと思います。どうぞよろしく願いいたします。

(会 長) それでは、委員のほうからいくつか質問させていただきますので、よろしく願います。委員のみなさま、ご自由にどうぞ。

(A 委員) それでは何点か聞かせていただきたいんですが、まずいくつかの事業、様々なイベント等開かれるということは非常に良く分かったんですけど、その中で「学び」というお話について取り組んでいるお話は書いてあるんですが、今説明の中にあった、特に「繋がり」もしくは「リピーターとなる仕組み」というようなことについての記述がよく読み取れなかったので、このあたりもう少し説明していただけますでしょうか。

(申請団体 1) 「学び」に対する事業の提案というのは指定管理をする中で数多く提案してまいりました。核となるテーマにもなります、地域への還元というところ、学びを地域社会へということがあるんですが、先ほどワクワクサイエンスという提案を出させていただきました。これは単に私どもがコンテンツを提供するだけではなく、地元で東京電機大学という大学があるんですが、その学生サークルさんといっしょに連動しまして、学校での理科の実験の準備等が煩雑で思うようにいかないという学校側からの要望があって、これに応える形でこの企画を実施いたしました。単に提供型ではなくて、地域によつての要望を汲み取りつつ、大学、自治会、商店会など様々な方々と連携をしながら「学びの場」を進めてきたというところがあります。

(A 委員) 東京都足立区の場合には東京電機大学の中に足立区立図書館の分館があります。そのような形で既に提携がなされている状況というのがあると思うんですけど、枚方の場合にはそのような状況を作っていくのか、どういうふうにするのか、出来るとお考えになって提案されているのでしょうか。

(申請団体 1) 図書館の窓口がある提携については行政側と大学さん側がやっています。

(A 委員) おっしゃったようなことが出来るというお話は分かるんですが、枚方の状況をご存知の上で、その上でこの提案をされているのでしょうか。

(申請団体 1) はい。

(A 委員) それは、そのための準備が整っているということですか。

(申請団体 1) 事前に我々としても蓄積がされている部分もありますので、それを枚方でも4月から展開することは可能だと思っております。

(A 委員) 実際に今、足立区内の企業ということで、関東圏、埼玉県もしくは足立区を中心とした様々な事業がなされているわけですけれども、関西地区での事例というか運営はほとんど無いように思うんですが。

(申請団体1) 実際の運営は無いです。

(A委員) そういう状況の下で様々な情報をきちんと周辺地域と連動するような形で、もしくは提携する中でやっていくだけのノウハウがあるのかどうか、また様々な場合に足立区からこちらに来て、すぐ対応することが出来る体制が整っているのかについてもお願いします。

(申請団体1) 提案書に書かせていただいているビブリオバトルがあります。これは立命館大学の谷口准教授が2年前ですか、足立区内で大会を大々的に行うときに実際に来ていただいて、そういう関係、関西にも大学関係の若干のコンネクションはございます。そういったリソースは使って、さらなる事業の展開は可能かと思えます。

(A委員) そういう意味での繋がりには当然あると思うんですけど、それが企業としてきちんと対応できるということを証明することにはならないように思うんですけど。それでは2点目に伺いたいんですが、職員の教育、職員の体制として全員無期雇用にしたというお話がございました。非常に良い話かと思うんですが、職員の教育体制というものと雇用というものは必ずしも一致する考え方ではなくて、無期雇用にしたから職員の教育がきちんとされているということにはならないと思うんです。それ以上に無期雇用にしたプラス職員の教育、もしくは職員というものをきちんと、スキルをアップさせる為にはどのようなことをされているのかについてももう少し教えていただけますか。

(申請団体1) まず最初の点ですが、雇用の改善なくして、いくら研修をやったところで、とっております。というのは、雇用、まず未来に向かって保障がなされてこそその研修だと思っております。でなければ、研修は単に手法ですので、まずその部分において、雇用というものを改善することに取り組みました。

(A委員) 枚方だけが関西地区に存在する状況のもとで、その一部の人々のためにどのような形の教育というものをさせていただけるのでしょうか。

(申請団体1) 枚方で働く人間はヤオキン商事の人間ですので、当然研修を受けます。

(A委員) 枚方の職員も東京で研修を受けるということですね。かなりたくさん開かれると、相当多くの時間を要しますが。

(申請団体1) こちらで研修することも可能です。

(A委員) わかりました。

(申請団体1) 雇用ということに関しまして、私自身が指定管理者として仕事をしていまして、勤めている施設は一緒なんですけど、頭の上の会社だけ変わったという経験があります。そういうときに有期雇用ということだと、教育を受ける身としてモチベーションですか、「もしかしたら3月いっぱい終わってしまう」というところと、無期雇用というところで勤めていけるということだと、現場に居る我々自身も研修を受ける側として入ってくるものが違うと実感しているところなんです。

(A委員) わかりました。

(B委員) 今回、枚方市で3つの図書館・センターの指定管理者を募集しているんですが、この楠葉・津田施設の方に応募された理由について、教えてください。

(申請団体1) 施設の規模等を考えてというところが一点と、先ほどありました人材育成・雇用に関連してくるんですが、数を多く受託するということは、それだけ人間を必要とすることになります。ただ、私どもの会社の規模の中で育成する時間、コスト等をしっかりかけていきたいという

ことがあるので、例えば過去の受託実績もそうですが、実は一挙に増えていったわけではないんです。確実に一步一步、人の採用と育成ということを順次にやっていったわけです。

(B委員) 適切なサイズ感があったということでしょうか。

(申請団体1) 今のところ、私どもが出来る確実な範囲ということですか。

(B委員) わかりました。

(C委員) 緊急時に権限を委譲しておくことは非常に大事なことだと思うんですけど、この申請書の方では、私たち2社は本社が東京・埼玉になっているから委譲しておくとして書いてあるように読めてしまっているんですが、遠くからだからでしょうか。

(申請団体1) そういうことではございません。

(C委員) 独自の判断で行動出来るような体制となっております、というのは、誰が体制を取っているのかということの説明してください。

(申請団体1) 遠隔地にあるからということではございません。私どもの会社では常々、学習センターであり図書館であり、責任者には常に雇用の形態を明確にさせるために権限を委譲しています。実際、3.11の東日本大震災の時に緊急時の対応をいたしました。足立区に北千住という駅があり、ここが早々とシャッターを閉めてしまい、帰宅困難者が駅前に溢れる状態となりました。行政から緊急の依頼を受けて、この人たちを誘導して一番近い生涯学習施設に約1週間近く、その方たちの保護に対応しました。

(C委員) その経験があるということですね、わかりました。

(副会長) 会社概要が無かったので分からなかったのですが、首都圏にほぼ固まっているということで、例えば資格があるトップに就くような人は本社から経験のある方が来られるということでは分かるんですが、アルバイトの方の採用は、枚方市内に住んでいる人を優先的に雇用することだと思うんですけど、採用・教育にかなり時間がかかると思うんです。そのたびに東京に行くわけには行かないので、例えば枚方とか大阪に営業所を置かれる予定があるのかということと、あと、第三者への委託を検討しておられる仕事はかなり多いと思うんですけど、枚方市でそういう業者さんを選定するのに、知っている業者さんがいるのか教えてください。

(申請団体1) 維持管理の部分で、質問内容についてお話させていただきます。弊社のグループ会社が大阪市内に支店がありまして、選定いただきました暁には事業の拠点として弊社も登記をさせていただいて、事業所として活動させていただく予定です。大阪市内やこの近隣にそういったコネクションがあるかという部分なんですけど、私の上席の者が関西の出で、ビル管理会社の経験を踏まえた者が弊社の所属です。そういったコネクションの中から経験を持った事業者さんを選定させていただいて、また見積もりあわせ等させていただいて、そういった中で外部に協力事業者をといる状況です。

(副会長) わかりました。

(申請団体1) 先ほどのご質問に対して補足させていただきます。実際のところをお答えしたんですが、私どもとしては、いわゆる大学開放というところで、ゼロから連携を作ってきたんですが、そういったご提案をしたり、或いはキャリアセンターさんとか若者育成支援という立場から、事業での関係作りをして繋がりを作ってきました。大学の先生を呼んできて講座を、ということよりは、むしろ若者が実際にやっていることなんですけど、市民に向けて若者チャレンジ講座ということで日頃の成果を出していただくような場作りというような部分での大学との付き合いをさせていただ

いております。

あと、龍谷大学などが中心の勉強会にも顔を出させていいただいて、勉強させていただくというお付き合いもごございます。あと、地域とのつながりについては、計画書にも書かせていただいておりますけれども、市民ボランティアを施設管理運営の中でしっかりと参画していただくことの有意義さを我々実際に経験してきておりますので、そういった部分で、既設のボランティアに入っていたくような仕組み、ノウハウを持っておりますので、当然最初は0人から始まって、ある施設では100人くらいの参加をいただいております。まず施設でボランティアをやっていいただいて、それから地域に出て行って、アウトリーチ事業をやっている現実があります。先生が言われたように、実際に出来るのかというところで、これからのチャレンジになるんですが、市民と一緒に作って、地域の力になっていくような構造を是非作っていきたいと思っております。

(会 長) それでは質問も出尽くしましたので、これでプレゼンテーションを終了します。ありがとうございました。

<申請団体1 退室>

(会 長) 委員の皆様から、事務局にご質問、または確認されたい事項等がありましたら、お願いします。

(質問なし)

(会 長) 準備がよければ、事務局で次の申請団体の誘導をお願いします。

<楠葉・津田施設申請団体2 (枚方まなびつながりプロジェクト) 入場・準備>

(事務局) ただいまから、プレゼンテーションを行います。

プレゼンテーションは、はじめに団体名及びプレゼンテーションされる方のお名前を述べてから始めてください。

なお、プレゼンテーションの時間は10分間です。

終了1分前になりましたらベルでお知らせし、所定の10分になり次第、打ち切りとさせていただきますので、よろしく願いいたします。

なお、プレゼンテーションが終了しましたら、引き続き、委員の皆さんからの質問にお答えいただきます。それでは、始めてください。

[申請団体2の出席者、自己紹介]

(申請団体2) それでは提案についてご説明させていただきます。時間も限られておりますので、確認事項の順に、要点を絞ってご説明いたします。また事業計画書につきましても合わせてご説明させていただきますので、ご覧いただければ幸いです。

まず確認事項の1、各社の運営方針です。私たち、枚方まなびつながりプロジェクトは大阪ガス

ビジネスクリエイト、リブネット、京阪ビルテクノサービスの3社が集まった十分な実績を有する専門集団です。加えて、FMひらかた、京阪電鉄を協力会社に迎えており、確認事項3の申請理由に記載している「枚方ならではのプロフェッショナル企業集団」の運営体制がみられています。また、事業計画書の通り、公共図書館や地域の生涯学習施設をはじめとする多数の施設の管理実績があり、安全で安定した施設運営をお約束します。

続いて確認番号6番です。私たちは地域の特徴や歴史、市の生涯学習施策と課題を踏まえ、施設の運営コンセプトを定めました。学びの場、繋がり場が体感できる施設、市民のライフステージに応じた学びと活気のある場所を目指します。このコンセプトを踏まえ、今後の方向性についてご説明します。まず生涯学習部門です。ここからは、お手元の提出書類、(2)事業計画書に沿ってご説明させていただきます。お手数ですが、事業計画書の13ページをご覧ください。

楠葉、津田ともに市役所の支所に併設された施設です。そのため、それぞれの施設の中心拠点として、学びと活気のある場所を目指します。緑の表にあるような利用者のライフステージに応じた学習機会の提供や、支所や図書館に訪れた人がフラッと立寄りやすい、居心地の良いロビースペースを目指します。

続いて図書館の方向性についてご説明します。計画書は14ページになります。図書館は市民の知る自由を保障する施設であり、基本的人権の基盤となります。その上で、市の方針である地域の情報拠点、地域課題の解決のための各種支援機能の実現を目指します。私たちは貸出・返却対応などのカウンター業務や、除籍・蔵書点検等の資料管理業務、レファレンス業務、こういった図書館サービスの基本となる業務の品質向上が何よりも重要だと考えております。この上で施設の特徴を踏まえ、今まで図書館を使ってこられなかった未利用者への積極的なアプローチを行います。こういった取組により、毎年3%ずつの貸出冊数増加を目指します。ここで1点、訂正とお詫びをさせていただきます。計画書14ページの最下部の目標貸出冊数ですが、楠葉と津田の数値が逆となっております。申し訳ございません。

続いて確認事項12、計画書24ページをご覧ください。生涯学習のきっかけ作りや施設の認知度の向上、活性化に繋がる事業です。緑の表にある具体的な取り組みをご紹介します。楠葉施設では、2階のオープンキッチンを使った「こだわりコーヒー講座」や、夜間に開催する働く世代向けのビジネスサロン、また自然環境に恵まれた津田施設では、子ども向け星空教室や地元野菜を使った料理教室など、それぞれの地域性、ライフステージに応じた生活に身近で学びのある事業を開催します。また、両施設とも市民が立寄りやすい施設、地域の中心拠点だからこそ、地域防災力の向上にも貢献したいと考えています。具体的には、学校などで多数の採用実績がある大阪ガスの防災プログラムを活用したイベントや、市民や子どもたちと一緒に町を歩いて調査する地域ハザードマップの作成を、図書館と連携して実施します。

続いて、確認番号13番です。計画書26ページをご覧ください。リブネットでは延べ3,700校の学校図書館運営実績があり、今の子どもたちが興味を持つ本やイベントについて熟知しています。子どもの読書を学びに繋げるために、市の採択する教科書の単元に沿った独自のブックリストの作成やブックトークなどを実施します。また、世界のバリアフリー絵本展など市の施策と連動した事業を実施し、子どもたちの不読率ゼロを目指します。

次に、確認事項15についてご説明します。計画書29ページをご覧ください。楠葉施設2階の厨房を備えたオープンスペースを部分的に改装し、くずはキッチンとします。楠葉のロビースペース

は、学生が自習をしたり、シルバー世代が囲碁・将棋をたしなんだり、多世代が思い思いの目的で利用されています。こうしたロビーの様子は市内の他の施設にも見られる光景で、市の一つの特徴だと思っています。この独自の文化をさらに発展させ、新しい利用者呼び込みきっかけとする、それがくずはキッチンの役割です。くずはチャレンジカフェや中学生カフェなどを企画するほか、椅子や机作りのワークショップを開催するなど、市民と一緒に手作りで運営をしていきます。

次に、緊急時の対応についてご説明します。計画書は少し飛びますが 61 ページ、確認番号 33 番です。さて、地域の中心拠点として、両施設は市民にとって安全安心な場所であることが必須であると、私たちは考えます。地元企業である京阪ビルテクノサービスの緊急時対応も私たちの強みの一つです。京阪樟葉駅、枚方市駅には常時、技術者が在籍しており、例えば施設の空調トラブルはもちろん、洗面台で指輪を流してしまうなど日常的な利用者トラブルにも最速 10 分で駆けつけ、即時対応が可能です。利用者にとって安心安全の施設運営を実践します。

最後に計画書の 67 ページ、確認事項 37 番の広報活動についてご説明します。地元メディアと連携した広報も、私たちの強みの一つです。例えばくずはキッチンを使った「これぞ私のひらかためし」など、協力企業である FM ひらかたなど地元メディアと連携した企画を実施し、地域の話づくりに繋がります。従来のポスターやチラシといった広報手段だけでなく、こうした地元メディアと連携することで、これまで交流の持てなかった未利用者と繋がるきっかけとなるよう工夫を重ねます。

少し駆け足ですが、以上が私たち（枚方まなびつながりプロジェクト）の概要です。地域の中心拠点として、活気がある学び繋がりに関わる人を支えられるような、そういう施設運営を目指しています。是非私たちをご指名いただき、これを実現するチャンスをいただきますようお願いいたします。

(会 長) それでは、委員の方から、いくつか質問させていただきます。

(A 委員) 御社の考えられる図書館の評価基準とはどのようなものでしょうか。

(申請団体 2) 図書館の評価基準ということなのですが、まず分かりやすい数字、統計の部分ですと貸出冊数であったり来館者数であったり、また、市民の課題解決、指標という意味ではレファレンス数、こういったものが指標となってくるかと思います。これとあわせて、利用者の満足度を測るために利用者アンケート、また普段使わない方にどうして使わないのか、どういったことがあれば使いたくなるのかという未利用者アンケート、こういったことを、図書館の中だけでなく、外に出ているいろいろな広報しながらやっていきたいと考えております。

(A 委員) 今提案されている中では、貸出冊数がかなり強調された形になっているように思いますが、それにプラスする形で、レファレンスはともかくとして様々な繋がりとか学びといったことに関して、特に未利用者といったお話もされていましたが、それらの提案について、御社が強調されたい点をもう少し教えてください。

(申請団体 2) 今回、開館時間が延長しております。今までサラリーマン世代だとなかなか時間的に使えないということもあったかと思うので、私たちの中では計画書 27 ページに大人向け事業例というところで「よるとしよ」というものをご提案させていただいております。ここに関しては、枚方市と協議のうえということになりますが、図書館の中で夜間に開館して茶菓や音楽を楽しみながら時間をすごしていただく、そういった今までの利用者とは違う形でサービスを展開していきたいと考えております。

(A委員) 様々なイベントをされる、若しくは夜間開館というのは分かるんですけども、実際にその中で「繋がる」ということを何度か示されておられましたけれども、どのような形になれば「繋がった」ことになるのでしょうか。

(申請団体2) まず、図書館利用者同士の繋がりということで言いますと、例えば中学生が高齢者向けにスマホ教室をすとか、中学生が小学生に対して読み聞かせをするなど、利用者同士の交流を図るイベントを実施していきたいと考えております。図書館は自分の課題を解決したり読書を楽しむというところではありますが、昨今、楽しむ場、集う場というところの機能が求められている図書館も増えてきておりますので、そういったところを実現することによって、枚方市に住んでよかったと思っただけのような図書館運営を行いたいと考えております。また、生涯学習市民センターとの連携に関しましても、先ほどの防災マップ、ハザードマップの作成もありましたが、まず最初には図書館で過去の災害情報であったり、あと例えば地図の書き方であるとか、そういったものを図書館の資料としてまず提供して、実際にワークショップをやっていただいて、そのワークショップの成果物、こちらを2階のロビー等で掲示することで、施設全体が一丸となってひとつのイベントをやっていく。さらにその中で、図書館で防災のテーマコーナーをその時期に合わせて一定期間展示するといったことを考えております。

(A委員) 御社は他のところ(御殿山・菅原)にも提案しておられますが、そことの違いというか楠葉・津田の特徴というのはどこにあるのか、教えていただきたいと思います。図書館部分だけでなく図書館にこだわらずに教えていただければ結構です。

(申請団体2) 今回の楠葉・津田に関しましては、市役所の支所との併設施設というところが一つの特徴となってくるかと思えます。御殿山等ほかの施設に関しまして、「そのためにいく」というところがあるかと思うんですが、楠葉・津田に関しましては、特に図書館や生涯学習市民センターに用事がなくても行かれる方がいらっしゃると思えますので、そういった方たちが「あ、図書館にもこんな本があるんだ」ということを興味を持っていただけるように、これも市との協議の部分になりますけれども、例えば支所の各窓口に、各テーマに合わせたブックリストを置かせていただいて、税の問題であったり、国民年金の問題であるとか、そういった手続きをされるときに「図書館にこういった本があるんだ」といったことを見ていただけるような、施設一丸となったことが出来るのが今回の特徴かと思っております。

(申請団体2) 補足いたします。先ほどの図書館については、支所に来られた方に対するブックリストということで、ご提示させていただいているかと考えております。生涯学習の方も先ほどと同じようなことになるんですが、こういった地区の中心にあるような施設ということで、ぶらっと訪れるといった方が多いと思えます。まずはそういった方々を取り込むということで、支所に来られた方々がぶらっとセンターのロビーにも立寄られるそういった施設運営を目指したいと思えます。

事業の展開も、ライトユーザーの方でも興味をもっていただけるようなメニューを取り揃えて提案しているという考えです。

(B委員) 収支予算書を拝見したんですが、警備費について初年度だけゼロというのが何か理由があるのでしょうか。

(申請団体2) これは仕様でそうになっていたかと思えます。初年度については、市のほうの契約が残っているということで不要としています。

(C委員) FMひらかたとの連携というのは非常に魅力的なことだと思うんですが、これは今聞いている範囲では図書館の単なる外向けスピーカーのように聞こえるんですが、もう少し双方向的なアイデアとか連携の具体的な例をお考えだったら教えてください。

(申請団体2) それではくずはキッチンのところでお答えさせていただきます。事業計画書の29ページをご覧くださいよろしいでしょうか。図書館については、FMひらかたでは図書館の告知ということでよろしいかと思いますが、例えばここに書いている「これぞ私のひらかためし」というタイトルの企画案があるんですが、こういったものはラジオなどで企画し「私の思うひらかためし」で募集させてもらい、そこで集めたものを実際にキッチンで作ると。その様子を、またラジオとかWebを使って結果を伝えるといった双方向のやり取りですね。ラジオを聴いている人がその場に集まることが出来る、普段は縁がない人が、そういったことがきっかけで、ラジオを通じてその場に集うことが出来る、最大の強みだと思いますので、そういうことを考えております。

(副会長) 以前に楠葉施設2階のロビーに行きまして、確かキッチンスペースのようなものがあった、コーヒーやクッキーが食べられたときがあったと思うのですが、そういうコーヒーが飲めるような施設にされるのかということ、今、貸出とかいうお話だと思うんですが、そういうのを続けられるのかということ。「くずはチャレンジカフェ」は凄く面白い企画と思うんですが、カフェをやりたいという人は結構いらっしゃるんですが、ハードルも高いし上手く続けられる方が居ないので、例えば仕入れとかメニューの提案までをやってもらえるのか、一週間という短い期間なので割と難しいように思うんですけど、どの程度のことを企画されているのかということ。あとお金のやり取りとかあるのか。これらについてお伺いしたいと思います。

(申請団体2) それでは3点ご質問いただきましたので、順番にお答えさせていただきます。1点目、こういったところでコーヒー等提供されるのかという点ですけれども、基本的な考え方としては常時、例えば事業者の方を誘致するということでは考えてなくて、もちろんコーヒーとか利用者サービスをするというのは重要なことなんですけど、やはりロビースペース、コミュニティで繋がりが生まれるような企画を第一に考えたいと思います。特定事業者さんがずっといるといったことは、今のところ考えておりません。

「くずはチャレンジカフェ」に関しましては、今のところ想定ということで1週間単位が望ましいのかどうかは、実際にされたい方と相談しながらとなるかと思っております。我々、コンサルティングとかは専門ではございませんので、もしそういった専門の方が居れば一緒にするといったことはあるかも知れません。現状では、やれる方を募集して、我々は後方支援をするとか、告知をすることによって人が集まる、そういった形でお手伝いしたいと考えています。ただ、中学生の場合は一緒に何かできるように取組んでいければと考えています。

(申請団体2) 一点補足なんですけど、こちらのメニューのコンサル等ということなんですけど、当社の顧問でメディアプロデューサーの方が居て、その方が「キューピー3分クッキング」のプロデューサーをやってみて、そういったところからのアドバイスは、特に「中学生カフェ」のときは是非、ワークショップなどに活かしたいと考えております。

(申請団体2) あとお金の件なんですけれども、実際に使用料がどうなるのかとの問題もあるかと思うのですが、使われる方に関しては、水光熱費等は確実に発生すると考えております。あとは模擬店のような形になるのかとか、そこは実際に売り上げを上げていただくとか、販売されることは想定しておりますので、実際に販売される方の収入になるというふうに考えております。

(申請団体2) そのあたりに関しましては市と協議させていただいた上で、目的外使用になるとか、いろいろルールもあるかと思しますので協議をしていきたいと考えております。

(会長) 京阪ビルテクノさんが労基からは是正の指摘を受けています。それについて何がいけなくて、どういうふうに改善したか、体制としてどういう風に変えたのか教えていただけますか。

(申請団体2) 会社全体といたしましては今現在、親会社である京阪ホールディングスからも労働基準の見直し、働き方の見直しというところでいろんな活動を取組んでおりますので、改善には向かっていると感じております。

(会長) わかりました。

(A委員) 今回のサービスの中で、新しく様々な活動をしたい、そして繋いでいくような活動をしたいということですが、その場合にそこで働く職員ということに関して、実際に従来とは違うような様々なスキルとか、考え方とか必要になってくるかと思うんですけど、今ここに提案されている内容を拝見いたしますと、研修内容そのものはそれほど目新しいものはあまり見られない。またマニュアルによって整理していくということが中心になっていて、新しいことに関して書かれたような、様々なものを学んでいく場が十分にあるのかどうかははっきり読み取れないんですが、このあたりの人の育て方というものに関して、もう少し教えていただけますか。

(申請団体2) 例えば44ページ、こちらの方で配置を予定している職員について、示しております。仰ってるように、実際にマニュアルや研修では届かない部分もあるかと重々承知しております。それは生涯学習の方ですと弊社が管理している中でもよくあることですので、それぞれにローカルフィットといいますか、それぞれの地域に応じたものを少しずつ学んでいくということになるかと思えます。ですので、マニュアルもこの通りにいくというより、他施設での事例、例えば吹田の施設での事例で、地域住民の方と話をした、話し合いをすると連携が取れた、そういった情報を館長会議とか本社会議で共有していますので、館長を中心に各スタッフに連絡をしながら、実地でそういうものを学んでいくといった感じになっていくと思えます。

(A委員) 図書館長を中心としてリーダーの方々がそういう研修をして学んでいくというのは非常によくわかりました。実際にこの配置を見てみますと、運営スタッフの方々がいろいろわかれるということになると思えますけれど、こういう方々を安定して抱えていただくような体制ですとか、若しくはこの方々に対して安定したスキルを学んでいただく体制とか、そういった面は如何でしょうか。

(申請団体2) 責任者クラスについてはそのような形になっているかと思えます。また実際の運営スタッフに関してですけれども、ここは実際に運営を始めてからということになるんですけれども、既存施設では、責任者が管理をした上で、企画事業の企画でありますとか、そういったものを運営スタッフも一緒になって考えていくというのが一応、私どもの施設の特徴となっております。その中で運営スタッフとは窓口対応とかで利用者の声を聞く機会が多いですので、どういった事業をしようとか、どういったサービスが好まれるかといったときに、その運営スタッフの方の「こういったこと、この団体さん困ってはりましたよ」とか「こういったサービスがないかと聞かれたことがあります」とか、そういった利用者の声といったことが一番重要になってくると思えます。運営スタッフが「これ一緒にやりましょう」と提案したら、私たちも運営スタッフにお願いしていくことが多ございますので、そういった中でやりがいとかスキルアップとか、そういったことを生涯学習の方では感じていただいていると考えております。

(申請団体2) 図書館については33ページをご覧いただきたいんですが、やはりスタッフの方も、自分のやってきたサービスというものが評価されるということが非常に重要かと思っております。当社の方は、スタッフ個人個人に対しての「社内MVP制度」というものを作って、待遇の良いスタッフだったり、レファレンスが良いスタッフですということをやらせていただいて、あとはこういったスタッフ、パート・正社員・契約社員にかかわらず、良いサービスをするスタッフに関しましては他の施設への研修講師として派遣することもございます。今回の場合に関しましては、枚方市の図書館に、秋田県鹿角市の図書館で非常に取り組みの良い館長、企画担当のパートスタッフがおります。そういったものたちが実際にこちらに来てさせていただいて、先ほどの「よるとしよ」というのはそちらの企画なんですけど、そういったもののやり方を研修していきたいと考えております。

(会長) それでは質問も出尽くしましたので、これをもちましてプレゼンテーションを終了します。どうもお疲れさまでした。

<申請団体2 退室>

(会長) それでは、ここで、事務局にご質問、または確認されたい事項等がありましたら、お願いします。よろしいですか。

(質問なし)

(会長) 準備がよければ、事務局で申請団体の誘導をお願いします。

<楠葉・津田施設申請団体3 (くずは・つだ文化創造プロジェクト) 入場・準備>

(事務局) ただいまから、プレゼンテーションを行います。

プレゼンテーションは、はじめに団体名及びプレゼンテーションされる方のお名前を述べてから始めてください。

なお、プレゼンテーションの時間は10分間です。

終了1分前になりましたらベルでお知らせし、所定の10分になり次第、打ち切りとさせていただきますので、ご了承ください。

なお、プレゼンテーション終了後、引き続き、委員の皆さんからの質問にお答えいただきます。

それでは、始めてください。

[申請団体3の出席者、自己紹介]

(申請団体3) 確認事項の一覧の順に沿いまして、事業計画書をもとにご説明させていただきます。時間に制約があるため、特にPRしたい案件を中心に説明させていただきます。あらかじめご了承ください。

では、事業計画書の1ページ目をご覧ください。1. 申請団体の経営方針などに関する事項につ

いて、当グループは教育事業運営、図書館運営、維持管理のそれぞれの専門家である3つの企業から構成されております。生涯学習を担当する小学館集英社プロダクションは、現在受託している公共施設のうち生涯学習施設だけで加古川総合文化センター、香芝市中央公民館をはじめ22施設、自主事業についても年間約1,000以上の講座を企画実施しております。図書館を担当する図書館流通センターは現在、全国の図書館509館を受託運営しております。維持管理を担当いたします長谷工コミュニティは、枚方市においても数多くのマンション管理を行っており、また築年数の古い類似公共施設の受託実績もございます。

次に事業計画書の4ページをご覧ください。枚方市は全国に先駆け、社会教育分野を牽引してきた自治体であると考えております。このたび構成いたしました各企業とも、日本全国で多数の類似施設を運営しており、また共同事業体としても、東京都千代田区図書館で5館一括管理運営や、図書館生涯学習センターなどを備える神奈川県大和市の文化創造拠点シリウスなど、新しい大型複合施設をパートナーとして一体運営している実績もございます。本事業の運営においてこれらのノウハウとネットワークを全面的に発揮することが出来ると考えて当グループを構成し、指定管理者申請をいたしました。

続きまして2.施設の経営方針に関する事項についてご説明させていただきます。事業計画書の7ページをご覧ください。当グループは本事業を通じ、古くから交通の要衝として既に成熟した枚方市の文化交流、文化創造、さらにそれぞれの地域特性、施設特性を考慮して、新たに人・文化・未来をつなぎ、枚方市に住みたい、住み続けたいと市民の皆様にも思ってもらえるような新たな地域コミュニティ、文化創造の拠点となることを目指します。そのためにも、子どもから高齢者まで全ての年代の方々にとって心地の良い居場所となるような事業、雰囲気を実施・醸成し、活発に市民交流ができる施設を目指して参ります。

次に事業提案についてご説明いたします。14ページをご覧ください。生涯学習市民センターの自主事業、図書館読書推進事業、生涯学習施設と図書館の連携事業の実施につきましては、当グループは楠葉・津田それぞれの地域特性を考慮し、市民センターと図書館の一体化運営の事業を提案して参ります。楠葉施設につきましては、駅前のくずはモールに代表される商業地域であり、近年ファミリー層にも大変人気のある地域と認識しております。既に楠葉施設は市民センター、図書館ともに利用者数が多い施設であり、課題としては、市民センターは利用者層が固定されていること、図書館は利用者数に対して施設が狭いことではないかと考えております。より幅広い世代にご利用いただけるよう、事業計画書17ページのように幅広い世代によりマッチした講座の実施や、19ページのように世代別図書館読書推進事業などの共同実施をご提案させていただいております。また、図書館利用の快適化向上のため、接客サービスの徹底はもちろんのこと、図書館利用者の座席確保について、例えば別館ロビーは静かに利用したい方、本館ロビーは市民交流をしたい方などの利用の棲み分けを提案するなど、市民センターと図書館が一体となって運営することで、様々な利用者にとって心地の良い居場所となることを目指します。

また、津田施設については、豊かな自然と歴史のある津田地域において昔からの市民と新しい市民との交流、また地域企業、サイエンスヒルズとの連携がさらなる地域活性化に繋がると考えております。一例ではありますが、15ページに記載のようなハロウィンやクリスマスなど誰もが参加しやすい季節のイベントの実施や、18ページのような地域で活動されている団体と連携した、地域の歴史・自然を学べる講座・イベントの開催、そしてサイエンスヒルズと連携したものづくり

講座の企画や雑誌広告の協賛依頼など、地域市民とともに施設を作っていきたいと考えております。いずれの事業提案におきましても、類似施設にて実施し好評を得ているものとなっております。

22 ページをご覧ください。楠葉施設2階ロビー喫茶スペースの活用について、まずは現行実施している事業を踏襲することを予定しておりますが、代表企業と図書館担当企業が現在、大和市文化創造拠点シリウスで一体化運営をして利用者の皆様に大変好評を得ている課題解決型講座を、楠葉施設でも実施出来ないかと検討しております。具体的には、枚方市とも協議の上ですが、枚方市が実施している出前事業による行政サービスの講座を定期的で開催出来ないかと考えております。

23 ページ目からをご覧ください。滞在型図書館と課題解決型図書館につきまして説明させていただきます。滞在型図書館と課題解決型図書館につきまして枚方市の示されている今後の図書館の方針は、これまでの貸出を中心としたサービスを行うだけではなく、空間を活用した滞在型図書館への移行を推進するものと述べられています。また、課題解決型図書館につきましては、身近な地域の情報拠点の役割を果たす図書館が、これまでのように市民からの求めに応じてアクションを起こすことだけでなく、市民にとって身近なテーマである子育てや、医療・健康づくりなどの課題について、図書館自ら積極的に情報提供の環境を整えていくこととされております。私どもは図書館を、人類の英知を未来へ活かす知識と情報の宝庫と考えております。利用する全ての人々が教養を深め、自らの課題を解決し、心身ともに健康な市民として自立することの支援がその役割であると理解しております。このことを踏まえまして、具体的な取り組みとして、例えば楠葉施設では、先ほどのとおり2階ロビーの賑わいと静寂の活用方法の棲み分けなど、図書館のフロアだけでは成し得なかったことを、施設を一体として捉えて工夫して参ります。特に楠葉では、近隣の地域性と併設する保育施設を考慮しますと、「子育て」というキーワードが挙げられます。子育てに関する企画事業を通じて、課題や悩みの解決のお手伝いや、一般成人向けの事業を実施する際の一時保育を行う提案を考えており、生活に身近な居場所としての施設を目指します。

同様に津田施設では、先ほどの事業説明の中のサイエンスヒルズとの連携事業を例に、「仕事」というキーワードがテーマとして挙げられます。地域で活躍している企業との連携を図って、枚方市で働いて暮らすということを語っていただく事業などを実施して、就業支援に役立てるような取り組みを行い、将来枚方市で働いて暮らし続けたいと思っていただけるような特徴を持たせた施設運営を目指します。

続きまして6、その他事項、施設広報活動について54ページをご覧ください。事業計画書に記載している活動のほか、地域企業・地域コミュニティとの積極的な繋がりや、各社グループネットワークの活用、例えばメディア事業を有する代表企業が、全社で行っているプレスリリースにイベント情報を載せたり、維持管理会社が枚方市内で管理しているマンションにも組合との協議のうえ、各マンション掲示板に施設イベントを告知するなど様々なネットワークを駆使して、本事業の利用促進へと繋げていきます。

以上駆け足ではございますが、確認事項に沿ってご説明をさせていただきました。ご静聴いただき、まことにありがとうございました。

(会 長) それでは、委員の方からいくつか質問させていただきますので、お願いします。

(A委員) 何点か教えていただきたいんですが、貴共同体におかれましては、ここだけでなく他にも提案されていると思いますが、共通のものは取り敢えず置いておくとしまして、この楠葉・津田におきまして、今のご説明では、サイエンスヒルズとの共同による仕事への協力であるとか、

もしくは保育施設がある、例えばサイエンスヒルズにおいては、講演会を中心としたものが提案されましたけれども、実際に仕事でどういう風に役に立つ工夫がなされるのか、またそれらが今後どのような形で運用されるのか、具体案があるのかどうか。保育施設に関しましても一時保育が提案されていましたがけれども、これらが実際に可能な体制というところまで具体案が検討されているのか、またそれが実現した場合にどのような利点があるのかについて、もう少し教えていただけますでしょうか。

(申請団体3) サイエンスヒルズとの連携についてですが、講座イベント系での連携を考えております。その中で、ものづくりを中心とした企業体の集まりであると理解しておりますので、ものづくりというような講座を通して、中学生、高校生といった方たちに企業理念だけではなくて働くということ、実際に働く人のご意見をいただきながら知識を深めていくというようなことが将来の職業選択に繋がっていくと考えております。

あと、一時保育については、代表企業である小学館集英社プロダクションでも一時保育を事業としてやっておりますので、体制といたしましては可能であると考えております。

このことが、小さな子どもが居たりして、実際には勉強できない、やりたいけれど参加できないという勉強であったりとか講座であったりとか、気軽に参加していただくことができ、さらに市民交流が発展していくのではないかとというふうに、当グループでは考えております。

(A委員) 今仰ったことは、実現可能だということはよく分かるんですが、現在提案されておられる予算の中で、実際にそれに関して人をあてはめるということが可能なのか、人員の点からの細かな検討が済んだ上での提案なのか、単にこういうことが出来るんですという話ならいっぱい出せるんでしょうけれども、そういうことも考えた上でのご提案でしょうか。

(申請団体3) サイエンスヒルズに関しましては、実際に類似施設、東京都中央区社会教育会館などでは実際に連携してやっている事例がございますので、だいたいの予算感は理解しているつもりです。実際、実施可能と考えております。一時保育に関しましては、職員が一時保育をするという考え方ではありませんので、受益者負担という形にはなろうかと思いますが、サービスの一つとして提案させていただければと思います。

(A委員) 別途検討ということになりますか。

(申請団体3) 一時保育については受益者負担ということになります。

(A委員) 「賑わいの創出」ということでキーワードに挙げられているんですが、他の施設の提案も含めて、それがキーワードということですが、実際に提案されている中身というのは、比較的図書館から様々な形での働きかけをする、若しくは講演会とかが多いかと思うんですけど、利用者を巻き込むという工夫という点、実際にそれらについての提案というのはどこにあるのかについて、教えていただけますか。

(申請団体3) 「賑わいの創出」に関しましては、実際に弊社が運営しております類似施設等でも、お金をかけずに、例えばですが、ご提案させていただきました、誰もが参加できるような季節のハロウィンであるとかクリスマスであるとかさせていただいておりますが、各施設ともに好評を得ておりますので、そういうことを含めて賑わいの創出に努めていきたいと考えております。

(A委員) 賑わいとは、人が来ればよろしいんですか。

(申請団体3) まずは、人が集まるということは、賑わいの一つだと思っております。まず来ていただくために、身近なイベントを実施するということが大切だと思いますが、さらにご提案させ

ていただきました、例えば 17 ページですが、偏った世代だけに利用されるのも賑わいと言うには難しいと考えておりますので、幅広い世代に向けた講座を実施することで、それぞれの世代の興味ある方が来ていただくことにより、さらに賑わいを作っていきたいと考えております。

また、例えば 14 ページになりますが、賑わいの考え方も確かにいろいろあるかと思うんですが、最終的には市民の方が自主的に学び、自主的に市民交流を行う、その支援を行うことが事業者の役割であると考えておりますので、その賑わいを作るための支援、サークル活動に形成できるように支援をさせていただくことによって、市民の自主的な賑わいに繋げていきたいと考えております。

(A 委員) そういう理念を掲げていることは分かるんですが、そういう理念がありながら、実際は、講座中心ではないかということの質問なんです。

(申請団体 3) 類似施設では、そのような働きかけを長年、10 年以上させていただいておりますので、市民自ら自主的に賑わいを作っていくようなイベントであったり、市民主体のイベントであったり講座であったりをさせていただいております。

(C 委員) 基本的なことをお聞きしたいんですけど、今回、3 回に分けて公募したところ、この組み合わせで、或いはこの 3 社それぞれみな申し込まれたんですね。どの館にもアプローチされていて、全体で気になるのは、全部採用されたら、本当に履行できるのかということです。それから、いま申請書類も前のも一緒に見ていると、22 ページだけが違うということになっています。私も津田には時々行くんですけど、あの館と楠葉とのユニークさが出ているのかということ、疑問があります。あと、ちょっと細かいことですが、全体的なことについてどうお考えか、お聞かせください。

(申請団体 3) 具体的なことで申し上げますと、代表企業である私どもとしては、東京都中央区の方で 4 館、社会教育施設で 4 館、同時に千代田区の方で 5 館一括、大和市のシリウスでは 3 年かけて 5 館同時にという形になっていくんですけど、今までやってきました。課題は人の採用ということも感じておりますが、今申しあげました 3 事業につきましては、非常に苦しみながらも採用・登用を行って育成を行ってきた経験がございますので、対応については出来るということで、参加させていただきました。あわせて、私ども企業ですので、スケールメリットによるサービスの提供ができるということを狙いとしております。

(C 委員) ユニークさについてはどうでしょうか。

(申請団体 3) 図書館の視点から申し上げます。他の事例等含めていうと、関西地区では神戸市、今現在計 7 館、地域館を指定管理で、契約はみな 1 館ごとなんですけど、神戸市内の方でも地域性があり、東灘と新長田、あと垂水とか、それぞれ館によって特色、特徴がある蔵書構成とか、いろんな部分で民間ならではの創意工夫をしながら展開させていただいています。7 館共通イベントとか、巡回ですとか、地域性を加味した形で各館でイベント展開するとか、共有する部分とそれぞれやる部分とある意味使い分け、棲み分けをした形で、当然中央図書館さんと協議ご相談をしながら進めていった実績等もございます。今回の 3 件に分かれているということですが、図書館の運営の立場からすると 6 館、一体的な運用が当社としては出来るという形で考えております。

(C 委員) わかりました。次に募集の要件では正規雇用をするということが書いてありますが、そのことは何処かに触れておられるのでしょうか。書いていないようなので、今、採用も問題だと仰ったので、なぜ正規雇用のことを書かれなかったのかということ。

それから、予算を見てみると、人件費が毎年同じ額なんです。でも、昇給すると書いてある。もう一つ、総合窓口があると書いてあるんですが、本当に楠葉・津田をご覧になって書いておられる

のか、よく分からないという感じがしたんですが。

(申請団体3) まず1点目、正規雇用については仕様書の通り採用しようと考えておりますので、特に記載はさせていただきませんでしたが、生涯学習市民センターに関しましては所長とリーダー、正規雇用で採用します。安心していただければと思います。人件費につきましては、単純に5年間で割らせていただいて消費税を入れさせていただいておりますので、このような記載方法になっておりますが、実際に運営が始まりましたら、この細目もあわせて修正をさせていただければと考えております。

最後に総合窓口の件ですが、こちらは、今現在はもちろん、無いということを理解した上での、2年目以降の提案でございます。市との協議の上、利便性を含めて検討していければということでご書かせていただきました。無いことは理解しておりますので、大変申し訳ございませんでした。

(C委員) 津田には行くこともあるので、かえって不便になるような気がします。

(申請団体3) 現状は実施していないということを理解した上でのこと、ということで検討していきたいと思います。

(申請団体3) 昇給しないということではなく、標準化して記載したということです。

(副会長) 楠葉に絞って質問させていただきたいんですけども、図書館の前を通ると、朝でしたら新聞を読んでおられる高齢者が多いというイメージがありまして、あと、最近行っていないので変わっているかも知れませんが、生涯学習市民センターの2階に学生さんが勉強するような机が並んでいるところがあって、なんとなく、中途半端な状況になっています。写真で凄くきれいな設備が載っていますけれども、おそらく予算には計上されていないので、こういうふうにされるご予定は無いと思うのですが、具体的にどのようにしていきたいと思われているのか教えていただければと思います。

(申請団体3) 今回、複合施設という理解をしております、図書館の課題ということで、利用者数に対し少し狭いのではないかと、非常に利用が多い施設と理解しております。別館2階のロビーと思うんですが、机が並んでいて自習室みたいな感じになっているスペースと、あと本館2階ロビーに関しましては囲碁を打つなど和やかなロビーがございます。そちらを新聞を読んでいる方々に案内するとか、読書スペースとして開放できないかということは今、検討しております、出来ればそういった形での一体化運営を進めてまいりたいと考えております。別館は、先ほど申し上げたとおり別館ロビーを例えば自習室であるとか明確に、今は凄く明確ではない、何となくそういった使い方のスペースとなっておりますので、逆にこちらからご提案させていただいて、静かに勉強するスペースであるとか本を読むスペース、こちらはワイワイみんなで学んだり討議をするスペースというように棲み分けをしていけたらと考えております。

(A委員) 2点教えていただきたいんですが、先ほど全て3件取った場合にどうなるかといったお話のときに、スケールメリットという言葉が出てきておりましたけれども、スケールメリットというのは様々な地方自治体等統合してのお話だとは思いますが、今回3件全部取れなかった場合に、その場合に3件取れることを前提にしてお話をされているような部分とかあるのでしょうか。それとも、そのことによって様々な、全部トータルして行うから出来るサービスといったものがあったりするのでしょうか。逆はあるのでしょうか。

(申請団体3) 私が申し上げたスケールメリットとは、枚方の中での地域性はあったにしても、同じような事業をやることによるスケールメリットと、枚方市の計画にございます文化芸術拠点の事

業、そういった文化をキーワードにしたスケールメリットという意味合いで、いわゆる枚方市だけでなく、全体のスケールメリットという考え方で申し上げたわけではございません。

(A委員) もう一点、今の説明にあった2階の使い方の話がよく分からなかったのですけれども、実際に読書スペースと仰っておられて、なおかつゾーニングというお話をされるということになりますけれども、ゾーニングを行った場合に、読書スペースの設置のしかたというのは、今のスペースの中でどのような切り分けが可能なのでしょうか。また、どのように運営するというのを念頭に置いて、今の話をご説明になったのか教えていただけますか。

(申請団体3) あくまでも図書館の読書スペースというわけではなくて、一体化運営による複合施設の中で、静かな空間を好む方のスペースと、賑わいを皆さん集まってやりたいというスペースに分けたいと考えております。その際に、新聞を読むのは図書館だけではなくて、市民センターをご利用していただけるような、そういったご案内をしていければと考えております。

(A委員) そのような場合に、単純に分けるゾーニングをするだけでは済まないように思うんですけれども。つまり単純に場所を設置すればよいという話では決していないはずなので、今、説明されているようなお話で、それは十分可能になるのでしょうか。

(申請団体3) 実際に運用してみて難しければその都度、実績にあわせて、変えていきたいと考えております。

(A委員) 実態にあわせてどんどん変えていかれるだけの予算が組んであるということなんです。

(申請団体3) 予算をかけずにやっていきたいと思っております。

(A委員) わかりました。

(申請団体3) 本館2階と別館2階の距離も、だいぶ離れておりますので、雰囲気作りも含めて、空間の演出は考えていければと考えております。

(A委員) ずいぶん離れたところのスペースなのに、それを一体としてどうやって運営するのかなとよくわからなかったのです。わかりました。

(会長) 質問も出尽くしたようですので、これでプレゼンテーションを終了します。どうもありがとうございました。

<申請団体3 退室>

(会長) それでは、ここで委員の皆様から、事務局にご質問、または確認されたい事項等がありましたら、お願いします。

(質問なし)

案件(2)採点について

(会長) それでは、案件(2)「採点について」を議題とします。事務局から、説明をお願いします。

(事務局) 採点の基本的な考え方につきましては、確認事項および加点事項について、AからEで採点いただくものです。採点に当たり、採点表、評価コメントとともに関係資料をお持ち帰りいただくか、事務局から郵送させていただきます。

また、それぞれの申請団体について、評価いただいた採点表、評価コメントにつきましては、メ

ールにて返信いただければと考えております。採点表、評価コメントのデータについては、各委員あてにデータをお送りさせていただきます。返信期限につきましては、10月31日（火）までに届きますようお願い申し上げます。

また、資料等につきましては、次回ご持参いただくか、或いは11月10日（金）までに事務局に返送いただきたいと考えております。

なお、これらの評価コメント等につきましては、事務局で取りまとめをさせていただきまして、次回第4回の委員会において、ご説明、提示をさせていただきたいと考えています。以上でございます。

（会 長） ただいまの説明に対して、委員の皆さんからご質問、ご意見等はありませんか。

（質問・意見なし）

案件（3）その他について

（会 長） 続きまして、案件（3）その他について、事務局から何かありますか。

（事務局） 大変恐縮でございますが、次回の委員会は、11月15日（水）午後7時から、第3委員会室で開催させていただきます。

（会 長） 本日の日程はすべて終了しました。よって、第3回枚方市立楠葉・津田生涯学習市民センター・図書館指定管理者選定委員会を閉会します。ありがとうございました。

（閉会 午後8時45分）